

重大な事故防止に向けた安全対策

【 31 アーチェリー 】

1 競技特性

アーチェリーは、18m～90m先の的を狙って矢をうち、その的中得点を競う競技である。試合中・練習中を問わず、シューティングライン上では一列に整列し、シューティングラインより先に人が入ることは許されない。また、競技進行は音声と信号灯によって管理されているため、競技中の事故はほとんどない。しかし、アーチェリーはもともと狩猟に使用される道具を改良したものであり、殺傷能力が高い。矢のスピードは装備や弓の強さにもよるが、約200～230km/hで、その衝撃力は近距離であれば薄い鉄板を打ち抜くほどと言われている。よって、万が一事故が起こった場合は、重大な事故につながる可能性が極めて高いため、安全に対する注意を怠ってはならない。練習中に、誤った弓具の扱いから起こった事故の報告があるため、未然に防ぐ指導や対策を行っていく必要がある。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 弓具の点検不足 ハンドルにリムが正確にセットされていない リムに弦がきちんとかかっていない 	<ul style="list-style-type: none"> リムが当たったところの裂傷や打撲など 	<ul style="list-style-type: none"> 弓具の点検を普段から行うようにする 弓を組み立てるときに確認をしながら行う

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 自分の体に合わない強さの弓を使用する 矢を抜くときの後方や周辺の確認不足 矢をつがえずに弓を引き、弦をはなしてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> 筋肉や腱の損傷、手首の腱鞘炎など 刺し傷や眼球損傷など リムが当たったところの裂傷や打撲など 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体力に見合った強さの弓を使用する 正しい弓の引き方をする 矢を抜くときは、矢の後方に人がいないことを必ず確認してから抜く 空引きを行わない

(3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 長時間におよぶ炎天下での練習や試合 天候の急激な変化 Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症 落雷による感電 	<ul style="list-style-type: none"> 帽子の着用や水分をこまめに補給する 雷鳴はもちろんのこと、雲の動きや予報レーダーなどの情報を活用して、天候の変化に備える 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。

参考文献

- 全国高体連アーチェリー専門部
 - 部活動要領
 - 高校生のアーチェリー部活動を安全に行うために
 - 事故防止のための安全指導対策
- 公益社団法人 全日本アーチェリー連盟
 - 全日本アーチェリー連盟競技規則

安全確認チェックリスト

【 31 アーチェリー 】

競技会名	
期 日	令和 年 月 日 ()
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設 ・ 設備 ・ 用具	関係者以外の射場への立ち入り禁止の指示、表示をしているか	
	矢が的をはずした場合の安全対策はなされているか	
	ターゲット付近に人がいないことを確認して弓を引いているか	
	射場の安全点検、安全講習を定期的に行っているか	
	組み立て時に弓具点検を毎回行っているか	
	他人の弓に許可なく触れていないか	
	競技にふさわしい服装（身体にピッタリ合った上衣や髪型）をしているか	
	射つ前、射った後に持ち矢の本数を確認をしているか。	
	射場周辺に不安全状態な箇所がないか	
活動 内 容	どのような場合でも人に向かって弓を引いていないか	
	水平に引き分け、矢先が上方を向いていないか	
	矢をつがえずに空射ちをしていないか	
	自分の身体に合った強さの弓を引いているか	
	矢取りは全員同時に行っているか	
	集中して行射を行う環境作りをしているか	
	矢を抜くときは後方を確認して抜いているか	
	ウォームアップ、クールダウンは十分に行っているか	
	行射距離にかかわらず、射線は統一されているか	
	矢を射つ前に、前方の安全確認をしているか	
	安全意識が維持できる緊張感ある練習を心がけているか	
	体調不良の状態ではないか	
環 境 条 件 等	帽子の着用やこまめな水分補給を行っているか	
	医薬品などは準備できているか	
	緊急時の連絡体制は十分か	
	落雷に備え、天候や予報を活用し、避難場所の確保ができているか	
発 令 時 対 応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか。	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか。	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか。	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)

重大な事故防止に向けた安全対策

【 32 ポート 】

1 競技特性

栃木県においてボート競技の練習は、渡良瀬川と谷中湖で行われている。今まで大きな事故は起きていないが、川または湖という自然の環境下で人間が行っている競技であるので、予断や準備不足などによって命の危険にさらされることもあり得ることをいつも意識している必要がある。また、心身の限界近くまで追い込むことを求められる競技であるので、身体が不調なとき、精神的に不安定なときには思わぬ事故につながりやすい。自分の体調の変化には十分注意する必要がある。更に、川や湖には釣り舟が浮いていたり、釣り人が岸から竿を伸ばしていたりすることもあるため、周囲の状況を把握し的確に判断していくことも求められる。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 艇庫内でリガー等にぶつかる。 ・ 艇庫内での艇の落下 ・ 艇を運ぶ際に足場の悪いところで転ぶ。 ・ 川岸のテトラポットに衝突し、船底に穴が開き沈没する。 ・ 水門付近での落下 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 擦り傷、切り傷 ・ 打撲、擦り傷、切り傷 ・ 擦り傷、切り傷 ・ 転覆による擦り傷切り傷。 ・ 水門に挟まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の確認と声かけ ・ 艇の固定を忘れない。高所の艇の出し入れに十分注意する。 ・ 階段や、雨後の滑りやすいところに注意する。 ・ 岸に寄りすぎないように注意する。 ・ 水門付近では、漕がない。

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ シングルスカルを単独で出艇している時に転覆す ・ 艇同士の衝突により、身体が損傷したり、艇が転覆・沈没する。 ・ 川岸のテトラポットに衝突し、船底に穴が開き沈没する。 ・ 艇同士の衝突 ・ 橋桁への衝突 ・ オールが折れる。 ・ オールが水中から抜けない。 ・ 水門の開門により、流される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体への障害はなし。 ・ 腰の打撲、手脚の擦り傷などの軽傷 ・ 転覆による擦り傷切り傷。 ・ 打撲、擦り傷、切り傷、骨折 ・ 転覆による擦り傷切り傷。 ・ 転覆による擦り傷切り傷。 ・ 打撲、捻挫、擦り傷、切り傷。 ・ 転覆による擦り傷切り傷。水門に挟まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単独での出艇は行わない。 ・ 航行ルールを厳守させるとともに、岸から監視する。 ・ 岸に寄りすぎないように注意する。 ・ 航行ルールの徹底。声かけ。暗いときのライトの点灯 ・ 安全確認。橋桁周辺の徐行。 ・ オールの点検。 ・ オールの角度の調整。 ・ 渡良瀬川河川管理事務所との綿密な連絡。

(3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 突然の天候不良により、落雷・突風を受けて転覆する。 ・ Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転覆や落雷による負傷。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天候の情報を得てから出艇することを徹底するとともに、突然の天気の変化の際には早めに艇を上げるよう指示しておく。 ・ 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。

参考文献

ローイング安全マニュアル 社団法人日本ボート協会編